

## 2024 年度 第 1 回 保育講演会

日 時 2024 年 6 月 14 日(金)

テーマ 「手で考える」～ものづくりを通して見えてくるもの～

講 師 金工作家 鯨丸 邦生 先生

去る 6 月 14 日 (金)、紫陽花が色鮮やかに咲くなか保育講演会が開催されました。お招きしたのは、昨年度まで本園のクリスマス親子工作をご指導いただいた金工作家の鯨丸邦生先生です。ジブリ美術館のロボット兵や日テレの大時計を制作した作家が語る子育ては興味深く、毎年の工作を心待ちにしていた保護者も多いと思います。

今回の講演会では、便利なものがあふれる時代にあえて不便を選ぶことで得られた気づきや出会いについてお話いただきました。(参加者 49 名)



### 【講演要旨】

#### ◆ 一期一会の縁と転機

ものづくりの過程で出会った人たちとの縁は、さまざまな転機をもたらした。

卒業制作のために自ら訪ねた職人との縁は、後に作家としての自立を決意するきっかけになった。

大学構内のゴミ捨て場での意気投合は、後に某ブランドのアトリエの設計・デザインの仕事に繋がった。

大学の OB からはジブリ美術館での大仕事が舞い込み、日テレのからくり大時計制作にも携わるようになった。

野毛山幼稚園との出会いもそのひとつ。クリスマス親子工作は、家族でのものづくりの意識にも変化を及ぼした。

#### ◆ 子どもと一緒にやってみる

近所のバス停を改築したり、季節の飾りを作ったり、柿を干したり、アニメキャラの被り物を作ったり……。

大人だけの作業よりも時間はかかるが、子どもに体験の場を提供して一緒にやってみることを優先にしてきた。

子どもは体験を経験に変えて、自身の力でどんどん進化していくことができる。

大人にできることは、子どもの意思を尊重し、背中を押し、温かく見守ること。

#### ◆ ものづくりを通して見えてくるもの

物を作るのに必要なことは、対象をよく理解すること。

時には進んで遠回りしながらも、自分の目で見て、手に取って、色々な角度から観察することを大切にしている。

自らが動くことで得られるさまざまな気づきや感覚を形にすることで、関わる人の心を動かすことができる。

新しい視点や意識を持ち、物ごとを良くしようと行動することが、未来を変えることになるのではないだろうか。

あえて調べない、あえて買わない、あえて子どもにやらせることの大切さ、自らが動くことで未来を変えていくことの醍醐味が軽妙な語り口で語られ、とても楽しく素敵なお話を聞くことができました。

直筆のスケッチなどの貴重な資料も多数拝見できるなど、この度の講演会がまたとない機会となりましたことを感謝いたしますとともに、これからも鯨丸先生とのお縁が末永く続きますようお願いしています。

鯨丸先生が語る作品ひとつひとつの物語や子育てのエピソードなど、講演会の詳細はこちら→

[https://nogeyama-kg.ed.jp/new/wp-content/uploads/2024/07/20240614\\_hoikukouenkai.pdf](https://nogeyama-kg.ed.jp/new/wp-content/uploads/2024/07/20240614_hoikukouenkai.pdf)



(ゆり組広報委員 山下美由紀 野口真奈美 毛利亜矢子)

## 参加された方より(順不同)

くるみ組 佐々木美幸

本日は講演会に参加させていただき、ありがとうございました。  
鯨丸先生から一つ一つの作品にまつわるエピソードを伺い、過去に自分自身も実際に拝見した作品もありましたので制作に至るまでの経緯などとても興味深く、あっという間の時間でした。  
日常の中に散りばめられている様々な発見や気づきを子供と共有出来るよう、私自身も心に余裕を持って日々を大切に過ごしていきたいと思いました。

すずらん組 瀧澤 友美

便利で早く効率良い環境に慣れてしまった私達に、あえて不便で非効率的な選択する事で見えてくる大切な事を教わった気がします。わからない事は何でもスマホで調べられる時代に、竹ぼうきを何も調べずに作り上げたお話しが印象的でした。鯨丸先生といえばロボット兵や日テレのからくり時計を思い浮かべますが、その制作に至るまでの里山での生活や大学時代のクロッキー帳を見せて頂き、先生の原点が知れて興味深かったです。貴重な制作の裏側のお話を聞けたので、ぜひ子供と一緒にあらためて作品を見に行きたいなと思いました。

ゆり組 鹿野 知沙

今回、クリスマス親子工作とはまた違った形で鯨丸先生のお話を聞けるという貴重な機会をありがとうございました。鯨丸先生のお子さんとの関わり方や、先生ご自身のお話をじっくり聞かせてもらい、果たして自分は子供との接し方大丈夫だろうかと考えてしまいました。  
廃材を大切にし、あえて作り方を調べずに試行錯誤しながら作ってみる。思いつく事は手当たり次第やってみる。凄く素敵で勉強になりました。  
何でもスマホ一つで手に入る便利な時代だからこそ、物の大切さを改めて考えなければならないと思いました。

ゆり組 山口 梢

兄の年少の頃から5年、鯨丸先生のクリスマス工作を経験させていただきました。今年のクリスマス工作はなにだろうと毎年楽しみにするとともに、毎回、鯨丸先生の子育てのお話を聞くこともとても楽しみでした。講演会に来てくださると話を聞いた時はとても嬉しく楽しみにしておりました。  
講演会では鯨丸先生の子ども時代、学生時代のお話を聞くことができ、育つ環境や親の背中が子どもの将来に大きく影響するんだと再認識しました。道具を手で作る、それもすぐ検索しないで、元々あるものをよく観察すると聞いて、まさに講演会のテーマ「手で考える」だと思いました。自分で考えて、苦労して作るからこそ丁寧にお手入れができてモノを大切に作る気持ちにつながるのかなと思いました。  
便利な時代になり、情報はすぐに検索できて（正しいとは限りませんが）、必要なものはすぐに買えます。モノへの愛着もどんどん薄くなっているような気がしました。いつも息子たちに小言ばかり言うてしまう私ですが小言ではなく、モノを大切に作る姿だったり伝えたいことを背中で伝えられる親になりたいと感じました。  
興味深い写真や、楽しいお話、もっともっと聞きたいと思ったあっという間の1時間半でした。近いうちにまた息子がお気に入りのロボット兵を見に出かけたいと思います。製作風景や設計図を見せていただいた後なのでもっと興味深く見られるような気がします。  
素敵なお話をありがとうございました。

ゆり組 丸山 智恵

この度は貴重な機会をいただきましてありがとうございます。  
鯨丸先生のお話を伺い、子育てや関わり方を振り返る良い機会となりました。  
特に、最近息子と一緒に工作や折り紙など、自宅で作ることが増えてきたのですが、つつい口を出してしまったり、すぐにインターネットで調べてしまったりとあまり意識せず効率性や利便性を優先していたことに気がつきました。あえて、調べずにやってみる、を大切に息子とのモノづくりを楽しみたいと思います。7月は七夕がありますので、息子主導で何か作れたらいいなと思いました。  
また鯨丸先生の講演会が開催されることがありましたら是非参加させていただきたいです。

卒園生サイトピー組保護者

色々な手作りを拝見させていただき、手作りする楽しさが伝わってきました。  
小1になった息子は、今でも家で、廃材を使って電車や線路を手作りして遊んでいます。買ってもらったおもちゃの電車や線路で遊ぶことももちろんありますが、面倒がらずに自分でも手作りしたところは、すごいなあと感じてしまいます。  
お料理などの家のお手伝いも、面倒と思わずにやりたがるところは、こういうところからもきているのかな？  
改めて、野毛山幼稚園の3年間に感謝です。

ゆり組 正木 桂

保育講演会を開催頂きありがとうございました。クリスマス工作の時から鯨丸先生のトークは面白いなあ、と思っていただけに、このような講演会でたっぷりとお話を伺えて本当に楽しい時間を過ごさせて頂きました。  
家に帰宅してから息子に講演会の内容をかみ砕いて聞かせていた所、「鯨丸先生、お子さんがいらっしゃるんだけどね、」のくだりで息子が「え！しゃちまる先生、お子さんがいるの??」とナゼかとても驚いておりました。そして「そうだよ。建築関係に進みたいだからもう大人くらい大きいんじゃないかな。」と言うと「あらま！じゃあ、おんぶできないね！」と。息子によると鯨丸先生は「もっと若いイメージだった」そうで、もしお子さんがいらっしゃるとしても自分と同じくらいの小さな子供だと思ったようです。  
先生がご自身を「精神年齢は26歳」とおっしゃっていましたが、息子には本当に26歳くらいの工作を教えてくれる楽しいお兄さんに見えていたのかもしれません。  
息子は釣りが好きなので、先生が小学生の時にみんなでルアーを自作して釣りに行った話は特に興味深そうに聞いていました（そしてやっちゃんのお母さんに車で連れて帰られたオチにはがっかりしていました）。夏休みはおもちゃのルアー作りからさせてみようと思います。  
またいつか鯨丸先生の講演会が開催されることを願っております。  
貴重なお話をありがとうございました。

ゆり組 村林あゆむ

講演会ありがとうございました。ユーモア溢れるお話の中に貴重な気づきを頂きました。  
日々家事育児に追われ、早く！まだ？と声かけしてしまうことがあります。  
やりたい！という子どもの気持ちを尊重してあげなくてははいけないですね。  
子どもとの時間を大切に、きのうの未来は“待つ”ことを最優先に、あたたかく見守っていこうと思いました。

ゆり組 毛利亜矢子

鯨丸先生には、つくし組の兄のクリスマス制作の時から素敵な作品の作り方を教えていただきありがとうございました。今回の講演会で、その先生の事をさらに詳しく知ることができ興味深かったです。お話を聞いていると、現在小学生のアネモネ組の姉の行動が思い出されました。毎日、学校から筆箱を持って帰ってこないのでもやもきしていたのですが、ある日突然筆箱の中身の定規や鉛筆のキャップなどを工作していたらしく嬉しそうに披露してくれました。その時は、すごいけど使い勝手悪そうなのになんで作ったんだろうと思っていましたが、鯨丸先生のお話をきいて、我が子が出来ようとした事、作ってみた過程での経験を通して「手で考える」ということをしていたのだと気がつきました。これからは、工作を見せてくれるたびに前とは違った反応をしてあげられそうです。楽しく貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

ゆり組 吉岡 理人

僕は鯨丸先生と大学も学部も一緒ということもあり、最初から最後まで楽しく懐かしく拝聴させていただきました！特に、「子供たちには、ものづくりの大変さを感じることでものづくりの楽しさが伝わるのでは？」といった所が共感しました。あと、最後のお父様のカッターの話がとても印象的でジーンとききました。またいつかお話を聞きたいです！ありがとうございました！

吉岡 歩美

鯨丸先生には、2013年に娘が入学した年のクリスマスの時からお世話になっており、歳の離れた息子が入園してまたお世話になることになり、とても嬉しく思っていました。  
楽しくクリスマス制作を楽しんでいる子供達と、私のように不器用ながらも奮闘している親にも、いつもにこやかに声がけくださっていました。  
そんな優しく柔らかい雰囲気の先生の講演会ということで、今回、どんなお話しをしてくださるのだろうか、とても楽しみにしておりました。  
講演会は1時間40分でしたが、楽しく聞き入ってしまい本当にあっという間でした。  
夫の大学の先輩ということで、卒業制作の写真も拝見しておりましたが、まず作品の実物が本当はとても大きいこと、そして船として乗れるということにも、とても驚き、感動しました。  
鯨丸先生のものづくりを追及する姿には、楽しさや好奇心が、散りばめられており、だからこそとても魅力的なんだろうなと、改めて感じました。  
今回は、貴重なお時間をいただきありがとうございました。

ゆり組 比護 友子

素晴らしい人柄に魅了されました。  
改めて鯨丸先生から親子工作を教わる事ができ、感謝申し上げます。大変貴重なお話をありがとうございました。



すずらん組 保護者

鯨丸先生のお話で特に印象に残ったのは、先生が“不便なことをする面白さ”を大切にされているということです。子どもと過ごす慌ただしい日々の中で、すぐ便利な方へ楽できる方へ流されてしまいがちな自分がいます。ただ子どもの心に残り成長させるのは自分で考えてやってみることの方なんだということを改めて感じさせられました。そのことを心にとめてこれからの生活に少しでも活かしていけたらと思います。鯨丸先生のお話はとても面白く、また貴重な原画を拝見できて幸せな時間でした。このような機会をいただきありがとうございました。

くるみ組 廣瀬 絵里

先生のお話はとても楽しく、また作品についての詳細な説明が聞けて、とても有意義な時間を過ごすことができました。特に様々なご自身の経験やお子さん達との体験を通してのお話は、はっとさせられる事が多く、私も子供との接し方の参考にしたいと思います。我が子は年少で昨年までのクリスマス工作に参加した事はなく、鯨丸先生の工作进行を体験することが出来ずとても残念ではありますが、今後鯨丸先生の作品を娘と拝見する際には、講演会での先生のお話を娘に話したいと思います。

ゆり組 保護者

面白そうだと思い参加させていただきました。以前クリスマス工作の際、鯨丸先生の話された、生誕劇の練習風景での園長先生のエピソードが何とも印象的で、ちょっぴりピリ辛なのに話題にされている園長先生も嬉しそう。テーマの「手で考える」ものづくりを通じて見えてくるものとは、もしかして自分の感覚との対話なのかなと思いました。自分も人類の歴史の一部であり、自然の中に見出してきた叡智に感嘆するような。子供たちは毎日、置かれた世界から感銘を受け、原体験を積み重ねている。不思議だらけで、何にでも疑問が湧いて何回も同じ質問をし続けて納得しない。大人の正解に上書きされない力がある。でもやがて準備されすぎた環境で、大人の正解に納得したふりをするのが”効率的”でやがて自分も感動しない大人になってしまう。どこが、分岐点なんだろう。感覚を言語化できる知識と知恵もついたと思う頃には、説明したいものも無くなり感度を失ってしまうのは。大人の意見に上書きされない、圧倒的な説得力を得ながらも、自身の感覚や体験を子供のように持ち続ける力。しなやかな抵抗力を持つには。人類の叡智に辿り着き、使いこなし、芸術的でありながら生活に地続きな要素をもち、具現化するメディアム(媒体)的なバランスに至るには。永遠の26歳、鯨丸先生。面白い。親としては、子供にも先生みたいになって欲しいとは高望みするのですが、せめて自分の意見を押し付けないよう、静かに見守る忍耐力を鍛えたいと思います。受け取る事が多い講演会でした。ありがとうございました。

すずらん組 長澤梨々

私は鯨丸先生の事は存じ上げず、先生の作品もゆっくり見させて頂いた事もなかったので、「なんか面白そうだし予定も合うから行こう」くらいの気持ちでした。お話をお伺いして、大量生産大量消費の社会で安く簡単に物を買う事ができ、壊れればまた買って、という生活を当たり前にしている事。一方で自分自身が子どもの頃、花や葉っぱで遊んだり、本格的なノコギリやカンナや彫刻刀を使って物を作るのが楽しかった事、自分で作ったカバンをずーっと使っていた事などを思い出し、自身の子どもたちにそういう機会を与えられていないなあと考えさせられました。出来ることと出来ないことはありますが、まずは子どもが「これやりたい!」と言った時に、めんどくさいなと思ってしまう事を改めたいと反省しました。とても楽しい機会をありがとうございました。

ゆり組 小長井 結

バス停改造や、毎年のハロウィン装飾などのお話から、ものづくりを通して子どもも大人も主体的に関わることは自然と物の本質を考えることにつながり、身を置く環境を良くしようとする人間の本質に気づかせていただいたような気がしました。同時に「子どもにもっと色々な体験をさせてあげた方がいいのでは…」という不安な気持ちも膨れ上がりましたが、最後の亜樹後先生の「今ある環境でできることを」というお言葉で冷静になり、できることを考えるようになりました。ここでも子育ての本質に気づかせていただくきっかけとなりました。貴重な機会を本当にありがとうございました。次回の講演会も楽しみにしています。



